

ふるさと探訪

第81回 乙女川の川狩りと龍神社



加茂川と中山川の両河口にはさまれた禎瑞新開地区は、安政年間の干拓によって造成された水田地帯です。

その工事の際につくられた遊水池は、西条藩庁が御止川（御留川）と称して、魚を放流飼育し一切の入漁を禁じて

いました。ただ、年に数回のお川狩りと呼ばれる開放日には、数百隻の田舟が繰り出すなど、多くの人々で大変なにぎわいを見せていたそうです。これが「乙女川の川狩り」の始まりです。

また、干拓地の北端、鬼門とされる位置には、背の高い黒松に囲まれて龍神社が鎮座

しています。乙女川に浮かぶかのように建てられた社殿が川面に映える美しさは、この神社が「竜宮さん」と呼ばれる理由を得心できるはずで

す。秋の風物詩として長らく親しまれてきたお川狩りも、近年は参加者が減少してしま



昨年の川狩りでも参加した子どもたちが大活躍！



ることでしょう。た。そんな中、地元の禎瑞小学校では「親子ふれあい交流体験事業」として、全校児童がこのお川狩りに参加しています。竜宮さんに見守られながら、今年も子どもたちが大きな投網の花を咲かせてくれることでしょう。



樹高約20mの黒松が、海風から竜宮さんを守っています